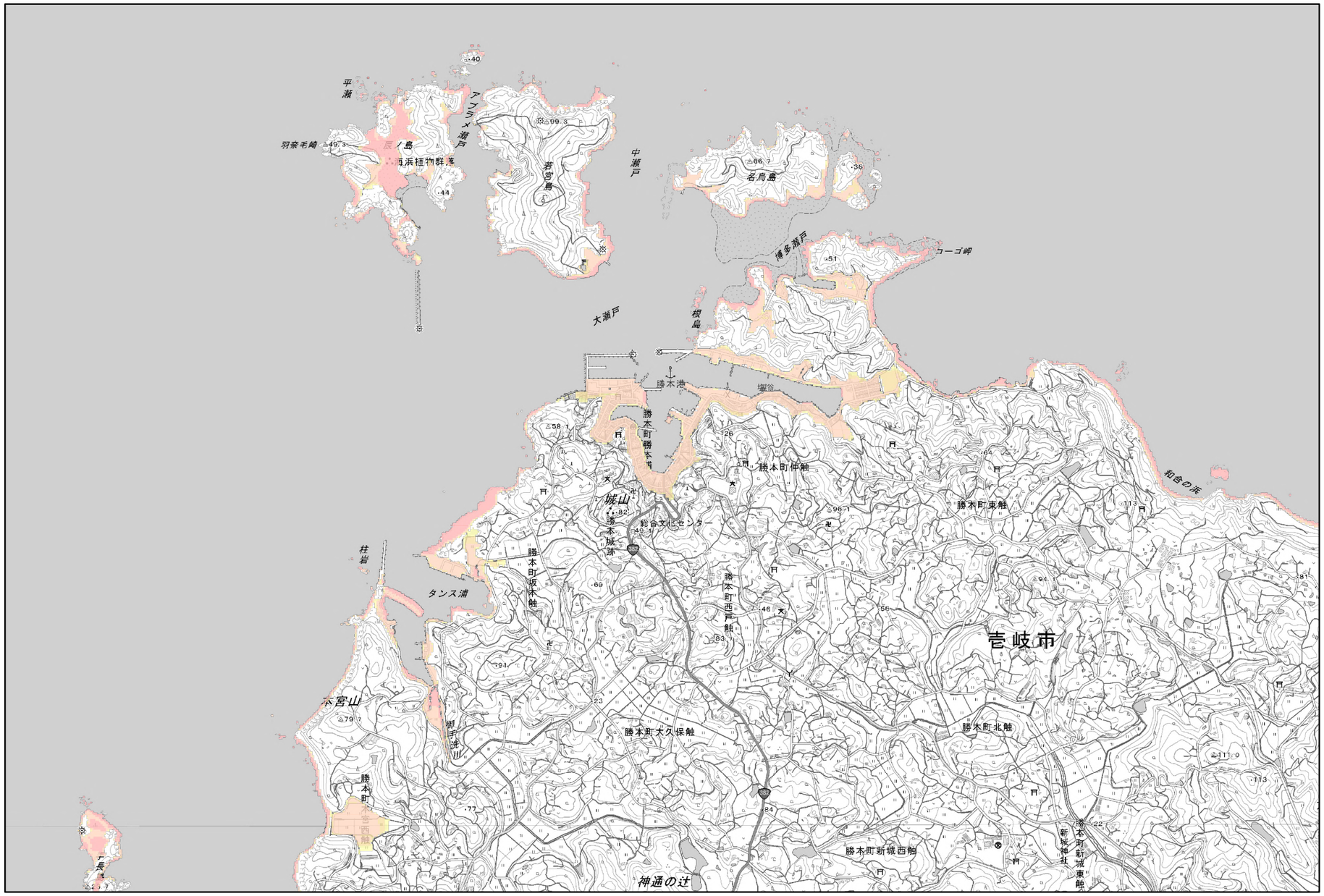
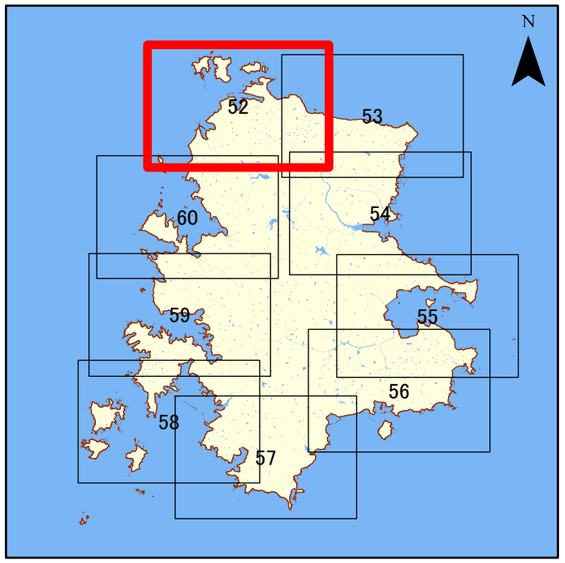
五島・壱岐・対馬沿岸高潮浸水想定区域図　（52 / 94）





凡　例

浸水深（m）

- ：0.3m未満
- ：0.3m以上 0.5m未満
- ：0.5m以上 1.0m未満
- ：1.0m以上 3.0m未満
- ：3.0m以上　5.0m未満
- ：5.0m以上 10.0m未満
- ：10.0m以上 20.0m未満
- ：20.0m以上

1:25,000

500　0　500　1,000 m

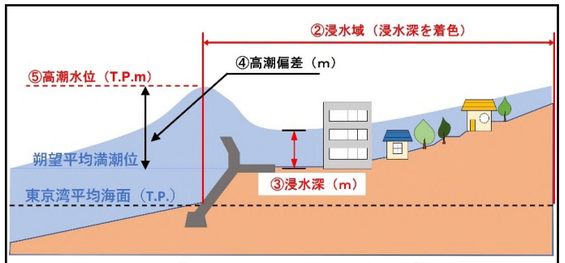


図-1　高潮浸水想定区域図における用語の定義

【留意事項】

○高潮浸水想定区域図は、水防法に基づき、都道府県知事が高潮による浸水が想定される範囲、浸水した場合に想定される水深等を表示した図面です。
○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸で潮位偏差(潮位と天文潮の差)が最大となるよう複数の経路を設定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を重ね合わせ、最大の浸水深が示されるようにしております。
○最大クラスの高潮は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これより大きな高潮が発生しないというものではありません。
○最大クラスの高潮を引き起こす台風の中心気圧としては、我が国で既往最大規模の室戸台風(昭和9年)を想定しています。なお、この規模の中心気圧を持つ台風が来襲する確率は、三大湾(東京湾、大阪湾、伊勢湾)で見ると500年から数千年に一度と想定されています。
○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、前提とした各種条件を超える事象により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
○地形図は、主に令和4年度に作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。
○地下につながっている階段、エレベーター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。
○地盤高が朔望平均満潮位より低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。
○確実な避難のためには、気象庁が事前に発表する台風情報(気象庁は日本列島に大きな影響を及ぼす台風が接近している時には、24時間先までの3時間刻みの予報等を発表しています。)や、市町村で作成されるハザードマップ等を活用してください。
○台風が来襲する前に避難を完了し、高潮警報や避難指示が解除されるまでは、避難を継続する必要があります。
○今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。
○高潮浸水想定区域図では、高潮による河川内の水位変化を図示していませんが、高潮の影響により、実際には水位が変化することがあります。

【用語の解説】（図-1参照）

①高潮　：台風などの気象じょう乱により発生する潮位の上昇現象。台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。
②浸水域　：高潮や高波に伴う越波・越流によって浸水が想定される範囲です。
③浸水深　：陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。
④高潮偏差：天体の動きから算出した天文潮(推算潮位)と、気象等の影響を受けた実際の潮位との差(ずれ)を潮位偏差といい、その潮位偏差のうち、台風などの気象じょう乱が原因であるものを特に「高潮偏差」と言います。
⑤高潮水位：台風来襲時に想定される海水面の高さをT.P.基準で示したものを指します。